

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) issiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

お試し移住スタート

11月から4回・12家族、「二宮暮らし」を体験

再生協議会空き家対策部会(廣上正市部会長)は、11月半ばから4回に渡って2泊3日のお試し移住をスタートさせる。新型コロナウイルス汚染対応、リモートワークの広がり背景に郊外移住への関心が高まって



おり、ショートステイを通じて住み、働く場としての二宮町の良さを体感してもらう。近く募集を開始し、最大12家族を受け入れる。大都市居住者を呼び込む動きが活発になっているが、お試し移住にまで踏み込む事例はあまりなく、どのような反響があるかに関心が集まっている。

* 写真は募集PR表紙

募集対象は、「二宮暮らしに興味があつて移住を考えており、週2日以上はテレワークで働く方」。実施日は11月20日、同27日、12月4日、同11日からの各3日間(金土日)で、各回とも3組を募集する。40歳以下のカップルやファミリーの応募を期待しており、県住宅供給公社住宅と民間施設に宿泊してもらう。宿泊費は無料(食事等は自己負担)とする。協議会、県公社、「結婚したら二宮に住もう」や不動産会社などの協力団体、既存移住者などのHPやSNSを使って積極的に広報する。応募締め切りは11月13日(金)。

(裏面へ続く)

Facebook「地域応援隊」参加100人へ

再生協議会がFacebookに立ち上げたグループページ「二宮町一色小学校区地域応援隊」の参加者が100人に迫っている。ほぼ毎日、一色・二宮の新しいコミュニティ情報が写真付きで載っており、60-70人の高いアクセス率を確保している。「withコロナ」下でのコミュニティ活動が定着すれば、さらに参加メンバーが増える見通しだ。



「地域応援隊」はネット上での地域情報の共有を目指し、8月半ばにスタート。参加者は開始から1か月で50人超になり、その後も参加者による友人への声掛けもあり順調に伸びている。

「一色、二宮」と情報ターゲットを明確にしているため、メンバーの意識、アクセス率も高いのが特徴だ。オリジナル写真はもちろん、投稿に対するコメントも多く寄せられ、「元気な住み

よい地域づくり」につながる情報共有の場が出来つつある。

* 写真はトップページ

パソコン、スマホとも、フェイスブックページからアカウント登録(基本情報入力)し、「二宮町一色小学校区地域応援隊」を検索すれば参加できる。退会も容易だ。

ぜひ一度、のぞいてみてください。もちろん、すべて無料です。

お試し移住者には初日のガイダンスで独自編集の「おすすめマップ」をもとに二宮暮らしのポイントを説明し、魅力ある場所の訪問、公社住宅や民間戸建ての見学などを求める。既存の町外移住者、地域住民との交流の機会も設ける。ただ、新型コロナウイルス対策への配慮から、当初考えていた屋内でのリモートワークや集合型の体験ツアーは見送る。初日のガイダンス、最終日の体験発表・交流以外は各自で行動してもらうようにする。

POST 再生協議会、議論はやま場に

―――年内にも方向付け

再生協議会の組織がなくなる令和 4 年度以後の事業継承についての議論が山場を迎えた。地区内の自治会長を加えた今夏以来の 4 回の拡大部会長会議を通じ、全 8 部会長の意見表明が終わり、11 月 1 日(日)には二宮町幹部との意見交換を行う。これらを踏まえて年末までに方向をまとめた考えで、その結論は今後のコミュニティ活動に大きな影響を与える。

各部会長の報告の要点は以下の通り。

<地域交流部会>

毎回 30～50 名の参加がある「こうりゅう塾」は収入基盤も整いつつあり、「地域でカフェ」を含めて継続したいが、それ以外の事業は難しい。こうりゅう塾を含め、会場費などその他経費の捻出のめどは立っていない。にのみや地域情報(にのっち)、FB「地域応援隊」も見通し難。



<友情の山部会>

ヤマユリ・山野草の保護育成、一般公開は地域の支援人材の動員を含め、一色小コミュニティスクール活動の中に組み込む方向で調整する。活動に必要な経費の捻出は課題。

<空き家対策部会>

過去 3 年間は活動費を国土交通省の助成金で賄ってきた。もともと経済的自立の概念がなじまない領域であり、組織解消とともに事業活動を停止する。

<移動支援検討部会>

広範な高齢福祉の一角にある課題であり、自立展開はなじまない。関係者の合意形成のうえ、町社協を核にした活動への移行を模索中。

<音楽活動部会>

やまゆり合唱団(70名)は会費をもとにした活動継続へ進みたい。ただ、やまゆり里山音楽祭、邦楽とお茶の会などは会場費負担もあり、料金収入をもとにした活動継続の見通しはついていない。

<散策路部会>

里山の散策路整備などハード面の活動を終え、健康づくり、交流などイベント開催に重点を移しているのではほぼ自立できるそう。イベント開催を超えた新たな魅力づくりの活動は困難。

<古民家部会>

部会の中核の GNP は引き続き保全管理に携わる方針を決めたので、部会の解消後は町の直轄事業として残っていくことになる。

<県住宅公社部会> 現在のところ、未定。